

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	ゲムシタビン+ナブパクリタキセル投与した進行膵癌患者における生体電気インピーダンス法で測定したサルコペニアの予後的意義についてのレトロスペクティブ研究
	研究目的	サルコペニアは、様々な癌患者においてしばしば認められ、予後や治療効果に影響を与えることが報告されている。本研究では、GnP を投与した進行膵癌患者において、全生存期間、無増悪生存期間、奏効率、病勢コントロール率及び有害事象と生体電気インピーダンス法(InBody720)で測定したサルコペニアとの関係について解析をする。サルコペニアと GnP を施行する進行膵癌患者との関連が証明されれば、早期の栄養療法や運動療法等の介入により予後の改善に寄与する可能性がある。
	研究対象者	2015年1月から2017年12月までに、当センター消化器内科肝胆膵にて一次治療としてGnPを受けた切除不能な膵臓癌患者さん
	研究期間	西暦 2022年2月28日～西暦 2024年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input checked="" type="checkbox"/> その他(Inbody データ) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理についての責任者	当センター研究責任者	消化器内科 肝胆膵 上野誠
試料・情報を 利用する者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器内科 肝胆膵
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし